京の大人的英知、注入マガジン

京都CF!【シー・エフ】

BACK ISSUES

お近くの書店でお求めになれない場合、ご希望の号数と部数をお電話もしくはファックスにてフェイム事務局までお申し込み下さい。在庫の確認をさせていただきます。その後、代金と送料を切手でお送りいただければ、到着し次第ご送付いたします。ホームページからもお申し込み頂けます。

こっそり部屋の本棚におきたくなるバックナンバーです。

No.270
2006.6月号
特集
束の間のほっこり逃げ場
定価350円
（送料100円/1冊の場合）

No.269
2006.5月号
特集
京都の粉もん こないなもん
定価350円
（送料100円/1冊の場合）

No.268
2006.4月号
特集
KYOTO カフェアルバム
定価350円
（送料100円/1冊の場合）

No.267
2006.3月号
特集
今夜、カウンター酒場にて
定価350円
（送料100円/1冊の場合）

年間定期購読

1年間分の「京都CF!」を銀行引き落としにて、4,200円（内、消費税200円）で予約購読していただけます。お電話もしくは巻末ハガキにてご連絡ください。改めてお申し込み用紙をお送りいたします。

フェイム事務局
〒604-8134 京都市中京区六角通烏丸東入ル 大輝六角ビル2F
TEL. 075-256-7558 FAX. 075-256-7557
ホームページからもお申し込み頂けます。
http://www.kyotocf.com

手作り靴「ほう」

月森正幸

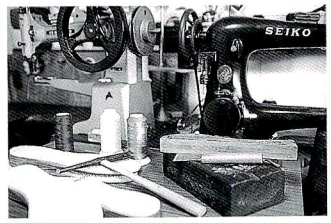
TSUKIMORI MASAYUKI

京TIAN I.D.
キョーティアンアイディ
The 131th person

【プロフィール】1974年大阪府出身。靴の修理業に携わる傍ら、趣味で靴づくりを楽しんでいた頃、手作り市で相棒のどいゆみこさんと出会う。7年前より手作り市にも出店。個人作家が活動しやすい場＝京都に移り住んで約2年半

気に入って手が届く普段履きの靴 それが「ほう」をつくった原点

仕事はもちろん私生活でもパートナーのゆみこさん。メーカーや販売の経験を積み、専門の学校で勉強中に月森さんに出会う。ふたりで分担しながら、2階ではパーツごとの切り出し作業、1階では組み立て作業を行っている



裁断用の包丁、踵部分を固定するために使うトンカチ、ソールのアールを出すためのボン台、製靴用の腕ミシン・修理用の八方ミシンなど、どれも靴をつくるためには欠かせない道具。中でも年代モノのミシンはふたりの愛機

「ほう」のイメージキャラクター「バッタくん」の脚のラインをデザインに組み込んだ「とのさまバッタくん」やスリップオンなど、7デザイン。革・ステッチの色や、靴底のパターンは組み合わせ自由。ゴム底で1万6800円～

高瀬川のせせらぎをBGMに、初夏には葉桜から届く木漏れ日を感じながら、月森さんと相棒のゆみこさんは、月に30～40足の靴を丁寧につくり上げていく。「機械を入れて、ガッチャンガッチャンやれば早いけど…それでは意味がない」と、穏やかだが揺ぎのない言葉。すでにつくった靴をただ売るだけではなく、手作り市や工房を訪れる人、一人ひとりと向き合い、「いろんな話をしながら、いつもの服装や趣味、生活環境など全部ひっくるめての靴をつくってる」。正直なところ「靴を出すことに確固たる自信はないけれど、あるのは好きという気持ちだけ」とゆみこさん。だからこそ、その靴を喜んでくれる人たちとの出会いが何より嬉しい。

まだ出会ってもいない頃から、お互い靴が好きで、靴づくりを始めた。月森さんは修理業で技を、ゆみこさんは学校で基礎から知識を学びながら。それぞれ、「好きだしやってみよう」「人がつくれないものはない」と軽い気持ちでスタート。「いざやってみたら覚えることが多くて大変でした」と月森さん。出店以前から訪れていた知恩寺の手作り市で、「靴つくってるの？」「つくってるよ」という軽い会話を交わす。これが運命の相手との出会いになるとは、このときふたりは想像もしなかっただろう。だが、それは単なる偶然ではなく、必然ともいえる「縁」となった。修理業に携わっていた月森さんは靴底の加工が得意で、学校で勉強したゆみこさんは靴の組み立てを熟知していた。互いが互いの知らない部分をカバーし、気づけば一緒に靴づくりに取り組むように。「見た目にはもう少し簡単かと思ってたんですが、まだまだ知らないことがいっぱいある」という、その奥深さが靴づくりの魅力のひとつ。

ふたりのつくる靴は、どれも渋味のある色が組み合わさってカラフルな仕上がりになる。赤、黄色、緑、青、白…。黒や茶色のオーソドックスな色味は確かに買いやすいかもしれないが、市販されていないような独特な色の靴を普段履きにする。それこそ、「ほう」ならではの提案。年に数回、箱から出して履く靴も悪くはないけれど、お気に入りだからこそ普段履きしてほしい。履けば履くほど革は馴染み、いぶし銀な風合いを生む。そこには、靴への愛情も加美され、より一層お気に入りへとなっていくだろう。また、指先がゆったりできるようにと、靴先は丸みのあるタイプしかつくらない。その履き心地、一度知ると他の靴では満足できない。

information

問い合わせ先
手つくり靴「ほう」
075・361・9233
spiritualflowers@ybb.ne.jp
毎月15日は知恩寺「手作り市」に出店
※抽選結果・天候などにより出店しない月もあり